

活動状況

※ Nは平成28年度から平成30年度12月までの支援対象者数の合計

①活動実績

	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	新規相談件数	支援対象者	新規相談件数	支援対象者	新規相談件数	支援対象者
高穂地域包括支援センター	3件	1件	0件	0件	2件	1件
草津地域包括支援センター	7件	1件	1件	1件	3件	2件
老上地域包括支援センター	6件	1件	1件	0件	1件	1件
玉川地域包括支援センター	4件	0件	0件	0件	1件	0件
松原地域包括支援センター	5件	1件	2件	2件	3件	3件
新堂地域包括支援センター	5件	1件	1件	1件	2件	1件
合計	30件	5件	5件	4件	12件	8件

★支援対象者とは、新規相談後に初回訪問に至ったケース。

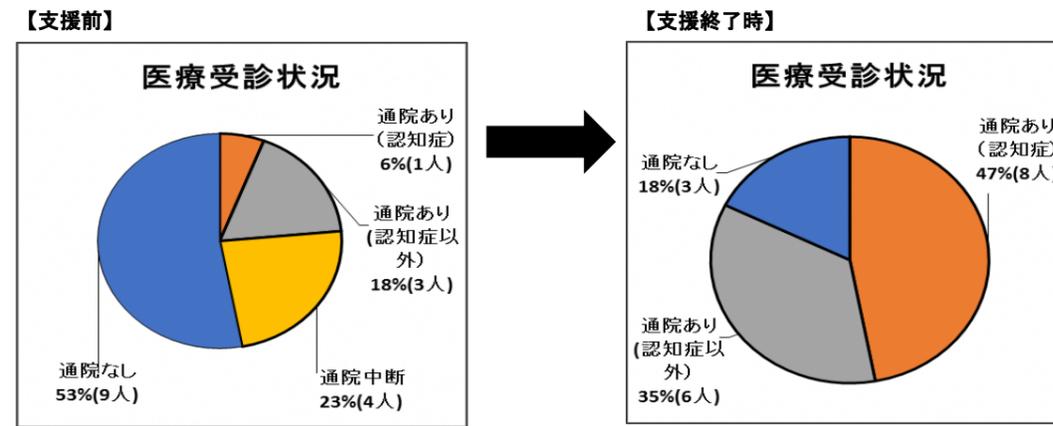
【訪問支援】

	支援対象者	訪問回数
平成28年度	5名	17回
平成29年度	5名 (平成28年度からの継続1名を含む)	27回
平成30年度 (12月末)	11名 (平成29年度からの継続3名を含む)	40回

【チーム会議】

	定例	臨時
平成28年度	7回	1回
平成29年度	12回	1回
平成30年度 (12月末)	9回	0回

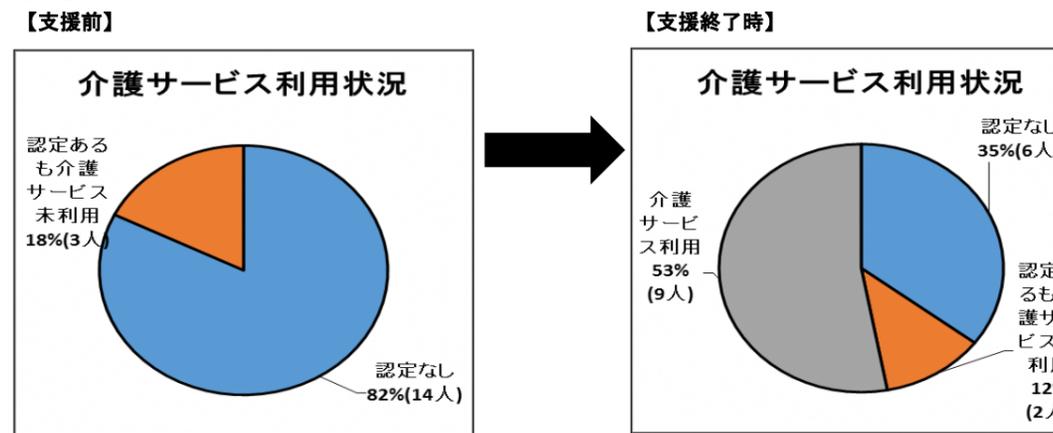
⑥医療サービスの状況 (N=17支援中のケースも含む)



資料2-2

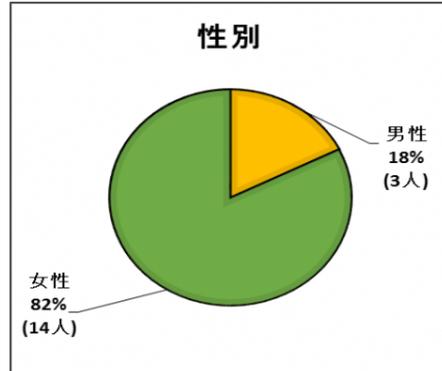
⑥ 医療サービスについては、ほとんどのケースで医療につなぐことができた。支援終了時の「通院なし」には、支援中のケース以外に、支援途中で亡くなったケース、支援終了後に医療受診につながったケースがある。

⑦介護サービスの状況 (N=17支援中のケースも含む)

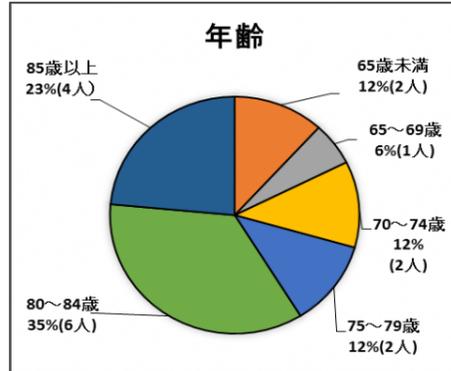


⑦ 介護サービスについては、ほとんどのケースで介護サービスの利用につなぐことができた。支援終了時の「認定あるも介護サービス未利用」には、支援途中で亡くなったケースや支援中のケース以外に、地域包括や民生委員等、支援者の見守りが増えたケースもある。

②性別 (N=17)

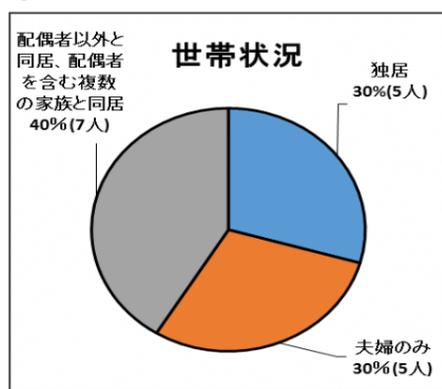


③年齢 (N=17)

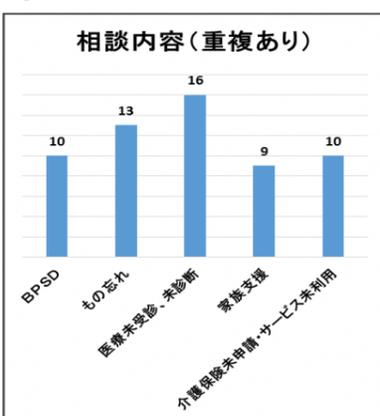


② 年齢については、75歳以上が70%と全市町村平均と同様の割合となっている。なお、65歳未満の2ケースについては、1人は知的障害の疑いがあり、もう1人は治療中で認知症以外の可能性も考えられる。
③ 性別については、女性の割合が82%と多く、全市町村平均と同様の割合となっている。

④世帯状況 (N=17)

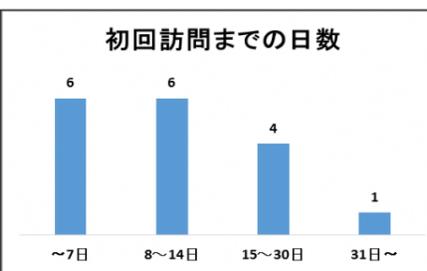


⑤相談内容



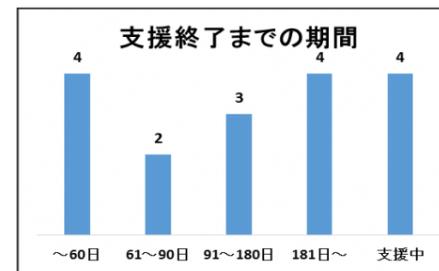
④ 世帯状況については、高齢者世帯が60%と全市町村平均と同様の割合となっている。
⑤ 相談内容のBPSDとしては、受診拒否、暴言、暴力、興奮、情緒不安定、意欲低下、

⑧初回訪問までの日数 (N=17)



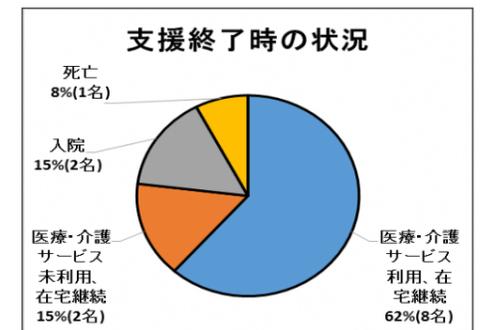
⑧ 全体として2週間以内に初回訪問ができており、平成30年度より相談件数が増え、同じ月に複数の新規相談があがることもあったが、チーム員の増員により早期に介入ができています。

⑨支援終了までの期間 (N=17)



⑨ チームの支援期間はおよそ6か月となっており、約7割のケースが6か月以内で支援を終了している。支援期間が長くなっているケースとしては、本人の認知症と診断されることへの不安に加えて、かかりつけ医がない場合や、元々の医者嫌いや精神疾患の症状により医療機関への受診につながらないケースや、家族の認知症やサービス利用への理解がなく医療機関への受診や介護保険の申請、サービス利用に協力がえられないケースとなっている。

⑩支援終了時の状況 (N=13)



⑩ 支援終了時の状況としては、在宅継続が最も多い。医療・介護サービス利用ケースについては、CMやかかりつけ医に支援を引き継いでいる。医療・介護サービス未利用ケースでは、地域包括での継続支援だけでなく、関係機関の介入や連携、民生委員等の地域の見守りにつながったケースもある。